



## ケースでわかる 実践型 職場のメンタルヘルス対応マニュアル

著者：森本英樹、向井 蘭 発行：中央経済社 定価：(2,900円+税)

本書は、職場のメンタルヘルス対応に深い経験を持つ産業医と弁護士の共著である。関連書籍の判例をもとに考察した記述の多くは、「ここまでするの?」、「こんなに防衛的でないといけないの?」と、実践場面への応用に抵抗を感じるものが少なくなかった。しかし、本書の内容はなぜか、素直に「こうすればいいんだ」とうなずくことができる。その背景に、紛争を回避するための対応について、一貫して当該労働者と会社が向き合うことが基本となっているからだろう。

全8章のうち第3章～第6章では各場面の勘所が、判例を引用しながら分かりやすく記述されている。ま

た、第7章では、職場で生じた問題への具体的な対応方法について29ケースを用いてQ&Aの形で整理されている。これらのケースは多くの職場で遭遇する状況をうまく描いており、実践に応用できる内容にあふれている。

本書は、現場でとても役立つ書籍であり、産業医・産業看護職はもちろん、人事労務担当者、衛生管理者、管理監督者にもお勧めできる。ただし、記述には、主語が明示されていない部分もあるため、常に、自組織におけるそれぞれの役割に置き換えて理解いただきたい。

もり こうじ  
森 晃爾

(産業医科大学 産業生態科学研究所 教授)



## 健康診断に必要な専門知識

著者：山田誠二 発行：バイオコミュニケーションズ株式会社 定価：(1,000円+税)

健康診断業務や、その事後措置の経験を通じて蓄積された筆者の専門知識が、専門職が健康診断に関わる日常業務の中で利用しやすいようにコンパクトにまとめられた書籍である。

本書では、一般健康診断や特殊健康診断の目的や意義、年齢層別の具体例を交えた事後措置の実践などの説明にとどまらず、産業医が関わる衛生上のリスクと対応、健康診断データの管理など幅広い内容が取り上げられている。労働安全衛生法が制定される以前の感染症予防を主な目的とした健康診断から、現在の健康診断に至る歴史的な変遷は多くの読者の興味を引くと考えられる。さらに、従来の短時

間・高濃度ばく露を受ける作業環境から長期間・低濃度ばく露を受ける作業環境に変化したため、特殊健康診断は特殊な健康障害の早期発見よりも、労働者が取り扱い物質やエネルギーの有害性を認識する「労働衛生教育」の場として活用するべきであることを示すなど、明日からの健康診断実務に生きる実践的な内容を含んでいる。

本書は、これから健康診断に関わることになる産業医など産業保健専門職にとってよい入門書となるだけでなく、一定の経験を積んだ産業保健職にとっても健康診断業務を振り返るよい機会を与えてくれるであろう。

もりくち じろう  
森口 次郎

(一般財団法人京都工場保健会 理事)

### 編集委員 (五十音順・敬称略)

委員長	相澤 好治	北里大学名誉教授	興梠 建郎	新潟産業保健総合支援センター所長
	大西 洋英	独立行政法人労働者健康安全機構産業保健担当理事	高倉 俊二	厚生労働省労働基準局安全衛生部労働衛生課長
	加藤 隆康	豊田衛生管理者研究会顧問	田中希実子	元NTT東日本健康管理センター看護部長
	神村 裕子	公益社団法人日本医師会常任理事	浜口 伝博	ファームアンドブレイン社代表/産業医
	甲田 茂樹	独立行政法人労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所所長代理	東 敏昭	一般財団法人西日本産業衛生学会特別顧問